

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3290400179
法人名	(有) ナカヤ企画
事業所名	グループホーム なかや 浜山の里
訪問調査日	平成 21 年 1 月 14 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 23 日
評価機関名	株式会社 ワールド測量設計

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 1月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	3290400179
法人名	(有) ナカヤ企画
事業所名	グループホーム なかや 浜山の里
所在地	出雲市浜町500-1 (電話) (0853)23-8588

評価機関名	株式会社 ワールド測量設計
所在地	出雲市荻苅町274-2
訪問調査日	平成 21年 1月 14日
評価確定日	平成 21年 2月 23日

【情報提供票より】(20年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	18 人
常勤	11 人
非常勤	7 人
常勤換算	4.0人

(2) 建物概要

建物構造	準耐火 木造 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,100 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白枝内科クリニック・板垣医院・松崎クリニック・入南クリニック・藤江歯科医院・県立中央病院・出雲市民病院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

勇壮な北山を背景に田園広がる平野に建ち、中央の事務所から両ユニットが見渡せるようなL型の機能的な建物になっている。夫婦対応部屋が4組あるのもこのホームの特長であろう。開設1年に満たないが、地元の入居者が多く、長年、福祉に携わってきた施設長を中心に「本人がこれまで培ってきた家族や地域社会との関係の継続を大切に、住み慣れた地域で暮らし続ける支援」を目指し、確実な歩みを感じられます。今後も利用者、家族や地域の要望を把握しながら、ホームの啓発に努められ、さらに活躍されることを期待している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回初めての外部評価である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員に自己評価票を配布し記入してもらい、取りまとめたものを基に全員でカンファレンスした。職員全員が初めての外部評価や自己評価であった為、評価の意義を伝えることから始まり、早期より施設長を中心に話し合われた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>軌道に乗るまでは2~3ヶ月に1回と不規則なペースで行われていたが、現在は定期的に開催されるようになった。家族や利用者にも交代で参加して頂いている。地域住民のメンバーが6名おられ、地域への協力のお願いや事例発表を行うなどホームの取り組みを理解して頂くように努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来所時や機会あるごとに月に1~2回は、状況報告や出納報告してサインを頂いている。又、何らかの変化や問題があった場合には、必ず家族に報告し対応を検討している。12月には、第一号のホームだより「はまの家だより」を利用者家族に発行され、今後の活用が期待される。家族からなんらかの要望があった時には、早急に家族に向けて改善策を伝えることが望まれます。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームから民家が多少離れており、近隣の方との交流は少ない。運営委員や地元消防団、警察、商店などは交流を深めつつある。運営推進会議では、利用者の趣味に合わせたボランティアや災害時の協力のお願いなどを行っている。今後、自治会への入会や老人会との交流を計画しており、前向きな姿勢がみとれる。地域向けの広報誌やパンフレットの作成など今後の活動を期待している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念である「豊かな心で社会に奉仕」に基づき、地域密着型サービスの理念を踏まえたホームの運営方針が謳われている。	○	事業所が大切に思い、職員のケアの基盤とすることを、利用者や地域にも浸透しやすいわかりやすい言葉で、事業所独自の理念を全職員で話し合ってもらいたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関には、法人理念やホームの目的、運営理念が書かれた重要事項説明書を大きく引き伸ばし掲示してある。開設間もない事業所であり、理念の実践に向け日々奮闘されている。	○	ホーム独自の理念を玄関やホールなどに、家庭的な雰囲気を損なわない工夫をしたうえで掲示をお願いしたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームから民家が多少離れており、近隣の方との交流は少ない。運営委員や地元消防団、警察、商店などは交流を深めつつある。運営推進会議では、利用者の趣味に合わせたボランティアや災害時の協力をお願いなどをされている。		自治会への入会や老人会との交流を計画しており、前向きな姿勢がみてとれる。地域向けの広報誌やパンフレットの作成など今後の活動を期待している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価票を配布し記入してもらい、取りまとめたものを基に全員でカンファレンスした。職員全員が初めての外部評価や自己評価であった為、評価の意義を伝えることから始まり、早期より施設長を中心に話し合われた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	軌道に乗るまでは2~3ヶ月に1回と不規則なペースで行われていたが、現在は定期的開催されるようになった。家族や利用者にも交代で参加して頂いている。地域住民のメンバーが6名おられ、地域への協力のお願いや事例発表を行うなどホームの取り組みを理解して頂くように努めている。	○	2ヶ月に1回の定期的な開催を期待します。隔月であらかじめ週や曜日を決めておかれると良いでしょう。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難事例や緊急を要するケースを受ける事も多く、後見人制度を利用の方もいる。ケースについて、市や安心センターと細かに連絡をとりあい、担当者との積極的な関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来所時や機会あるごとに月に1~2回は、状況報告や出納報告してサインを頂いている。又、何らかの変化や問題があった場合には、必ず家族に報告し対応を検討されている。12月には、第一号のホームだより「はまの家だより」を利用者家族に発行した。掲載写真からも生活の様子が伝わってくる。	○	定期的に発行するおたよりに、家族が知りたい点を考慮した個別のコメントを書き込む欄を作るなどの工夫を期待している。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に交代で参加して頂き、意見を頂いている。又、ホーム内の相談窓口だけでなく、第三者委員を紹介し、意見や苦情を表せる場があることが説明してある。最近、玄関の死角となり投函しやすい場所に意見箱を設置された。	○	日頃からの、声をかけやすい職員の雰囲気が大切です。家族と職員の信頼関係を深めると共に、家族同士の交流の機会を持ち、意見を出せるような仕組みを作って頂きたい。特に衣類の管理に関しては、家族から何度か指摘されており、家族に向けて改善策を伝えることが急がれます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後2名の職員が退職した。利用者からは「あの人はどうしたか」と尋ねられたり、寂しそうな表情をされることもあった。馴染みの関係の重要さは理解されており、ユニット間の異動はないように配慮しているが、利用者や家族への新任職員の紹介や退職者の報告は不十分なようです。	○	家族を含めた馴染みの関係が必要であり、職員の交替はホームだよりを使ってでも、家族にも報告して頂きたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設1年に満たないホームなので、まずは職員の定着に力を入れている。管理者らは職員と1対1で話す機会を持ち、職員の気持ちを聞いたり、管理者の思いを伝えている。研修の機会はまだ少ないが、研修内容の共有に努め、内部学習会も行いうようにしている。	○	職員が勉強会や研修に参加しやすい配慮や、定期的に自分のケアを振り返るために自己評価の機会を設けて頂きたい。又管理者は職員の頑張っていることをきちんと評価し、考課につなげ意欲向上に努めて頂きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出雲市グループホーム連絡協議会に参加している。発表会では事例発表も行い、少しずつ他の事業所と交流が始まっている。	○	今後は、一般の職員も他の事業所との交換研修や勉強会など、同業者との交流や連携が出来る場を作って頂き、サービスの向上に努めて頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に、いつでも相談や見学を受けている。担当のケアマネと一緒に利用者が見学に来られたケースもある。入居当初、帰宅願望が強い方には、じっくり職員が寄り添い、継続的に利用者の嗜好や趣味に合わせた同じ時間を過ごし支えている。緊急でやむを得ない入居の場合でも、納得していただけるように努力されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者同士の関わりを大切にしながら、互いに助け合い、残存能力を引き出せる場面作りに努めている。利用者の喜んで下さる笑顔に職員も励まされながら一緒に助け合って生活をされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情やふと口にされた事に耳を傾け、日々寄り添うことで思いや意向の把握に努めている。職員は常にメモ用紙を持ち歩いており、大切な気づきを忘れないようにメモしておき、記録に残している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前に管理者と主任とで訪問し、本人や家族の意向を確認し、主治医や担当のケアマネ等関係者からも情報を得たうえでプランを作成し、さらにカンファレンスで職員らの意見を反映し、仕上げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	慣れるまでの当面のプランをたて、入居後1ヶ月位でプランを見直し、修正している。その後は2～3ヶ月毎に見直しを行っている。ユニットの職員で気づいたことは日常的にミニカンファレンスを行っており、状態に変化や問題があった場合はその都度見直しをされている。	○	家族へは修正したプランを見て頂き、事後承諾となっている。事前に家族からの要望を聞いてプランに取り込めるシステムを検討して頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	退居後も会いに行ったり、担当者と連絡をとり状況を把握している。ホームから移られる時には関係者へ情報提供書を渡すだけでなく必ず口頭でも伝えるようにしている。ケースによっては受診の付き添いや、往診日に合わせて家族が来所し、一緒に受診して帰られるケースもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は、入居前のかかりつけ医でも、複数ある協力医の中からでも自由に選択して頂いている。通院の送迎は職員がしているが、家族に付き添って頂き、直接医師から説明を聞いて頂くようにしている。看護職員が3人おり、現在インシュリン注射が必要な方も入居されている。服薬管理や職員への説明や指導もされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで2ケース該当があり、主治医の協力による往診やホームの看護職員の夜間対応もしてきたが、最終的には入院となった。終末期の指針はまだ明確でない。AEDが設置されており、使用法や救急蘇生法など看護職員を講師に研修を行っている。	○	重度化や終末期の対応について、現在の体制で出来る事、出来ない事を見極め、全職員が同じ思いを持って取り組めるように話し合って頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約の時には、個人情報の同意書を頂き、個人情報の取り扱いには充分注意している。ホーム便りの写真掲載についても、家族の了承を得て発行している。職員は暖かく優しい話し方をしており、トイレ誘導の声かけはさりげなく行われている。	○	利用者居室への出入りの際は必ずノックをする等日常的な確認と改善を行い、さらに職員の意識向上に努めて頂きたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護度の違いやその日の体調に応じた個々のペースを尊重し、その人に合った残存能力を活かせる場面を工夫されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニット毎に職員が交替で、食事の準備をしている。食材を刻んだり、皮むき、盛り付けや洗い物など出来る事を利用者にも手伝って頂きながら、一緒に行っている。手作りオヤツも楽しみのひとつである。又、年末には職員の家族からの差し入れの手打ち蕎麦、新年会の鍋パーティ、敬老会や誕生会等のイベント食も楽しみとなっている。	○	「食事」を支援の一貫として捉え、職員も同じ物を一緒に、同じテーブルを囲んで楽しく食べる雰囲気を作って頂けるように話し合ってもらいたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者や家族の希望に応じて、いつでも入浴出来る。強制はせず、気分や体調に合わせて入浴して頂いている。夜8時頃に入られる方もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	干し柿作りや旬の料理を楽しんでいる。夕食時晩酌をされる方、趣味の裁縫や折り紙、絵画を楽しまれる方もある。訪問散髪カーを利用し整髪される方もある。隣地を借りて畑や花壇を広げる計画も進行している。		隣地の活用が利用者の気晴らしとなり、地域住民との交流の場となることを期待する。又、家族とのつながりを断ち切らないような機会を多くもち、働きかけて頂きたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に合わせて、少人数でドライブに出かけている。周辺の散歩や草取りもされていますが、季節がら少ないようだ。職員と一緒に買い物に行ったり、家族と外出に出かけられる方もある。	○	天気の良い日は近所や公園を散歩し、近隣の方や子ども達と交流が持てる機会を作ってもらいたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望があり外出される方がいるが、日中は鍵をかけずに自由に出入り出来る。両ユニットの入口は事務所の前を通るようになっており、職員が事務所に居るようにしている。出かけられる時には、職員がさりげなく声がけをして、同行している。		周囲は比較的交通量が多く、田んぼや用水路などの段差もあり、細心の注意が必要である。ヒヤリハットを見逃さず、目配り気配りを全職員が心掛けて頂きたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	消防署への火災通報電話機や火災受信機が設置されている。消防の協力により防災訓練、消火訓練、緊急通報訓練など行っている。防災対策会議も行い、搬送方法なども具体的に話し合っている。又、運営推進会議で報告し、地域への協力をお願いしている。		家族の連絡網の作成や、職員に抜き打ちでの緊急通報訓練を行うなど前向きに対策を検討されている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望を取り入れながら献立は職員が一週間交代でたてている。その日の材料だけ決めて、各ユニットで好きな料理を作られている。利用者の状態に合わせた調理や介助をしている。毎食の摂取量や、水分のとりにくい方はチェックをし、記録を全職員で共有している。	○	市の栄養士など専門的な方に定期的に献立表をチェックしてもらいアドバイスを頂かれてはいいかがでしょうか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓からは暖かな光が差し込み、外には皆で植えた花壇や、利用者が自宅で育てていた植木が並び、水やりや手入れを楽しんでいる。昼食後、畳の間では数人がコタツで横になっている姿が見受けられ、ゆったりとした時間の流れが感じられる。廊下に置かれたソファもくつろぐ場所となっている。3居室に対して1箇所トイレが設置され、掃除も行き届いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの持ち物や家具を持参して頂く様に話し、職員が運搬を手伝う事もある。しかし、中にはまだ殺風景な居室もある。収納場所も少ないようである。畳部屋を希望の方には事業所から畳を提供している。夫婦で入居できる夫婦部屋も4組用意されており、現在一組利用されている。	○	ホームの想い(季節の衣替えや布団の入れ替えを通し家族との関わりの継続を期待していること。又、使い慣れた馴染みの物を持ってきて頂きたいこと)が家族に十分に伝わっていないようです。ホームの想いが伝わるように利用案内書の見直しをお勧めします。又、急に居室に戻られる場合には、ホールと居室の温度差が大きく、利用者の体の負担がないような居室の温度調整をお願いしたい。